

校長室通信

令和6年4月22日号
志免町立志免西小学校
高良 祐治

今年も4月18日(木)に全国学力学習状況調査が行われました。この調査は、2007年から実施されている全国の小学6年生と中学3年生を対象とした子どもたちの学力の状況を調査するテストです。本校の6年生を含め、全国で18000校以上の100万人近い小学6年生が、国語と算数の問題に挑戦しました。

各教室のどの子どもも真剣な表情で解答用紙に向かっていました。そんな子どもたちの様子を見ながら本校で育みたい学力について考えてみました。まもなく子どもたちが持ち帰る問題をご家庭でも一緒にご覧になりながら語り合っただけいただければと思います。なお、問題は <https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm> からでもご覧いただけます。

粘り強く、丁寧に解釈する力

問題をご覧になると、まずは問題文の長さに驚かされると思います。例えば国語の物語文を読んで、心に残ったところを説明する問題では、まず初めて読む物語(一部)が5ページにわたって示されており、さらに架空の小学生たちが感想について話し合っている様子を読んだ上で各設問に答えていく必要があります。算数も図やグラフや表が示され、架空の子どもたちがこれらの資料を基に話し合っている内容を踏まえて各設問に答えていく必要があります。

日頃子どもたちが受けている国語のテストは、それまで国語の授業で何度も読んできた物語のごく一部が上段に掲載され、その下にこれも授業で確認したり話し合ったりしてきたことが問われています。算数も左側に計算問題が並び、右側も各数行の文章問題がいくつか並んでおり、それらはすべて直前まで学習していた単元の内容のみが問われています。

つまりこの調査では、どのような状況が記されているのか、それを読み取った上で何が問われているのか、さらに、どのように答えなければならないのかということを解釈することを求められていることがわかります。昨今、タイパが重視され、じつくりと何かに向き合うことが軽視されているような風潮がありますが、自ら創造的な人生を歩んでいくには、腰を据え、じつくりと問いに向き合える力も大切だと思います。

考えを整理し、伝わるように書く力

この調査の特徴の一つに、長文での解答を求められる問題が多くあることが挙げられます。これも、日ごろの単元テストにはない特徴です。

国語では、文章や資料を読み取り、その中から必要なキーワードを使いながら、定められた文字数で解答することが求められます。また算数では、問題文から式を作り答えを書くだけでなく、どのようにその答えを導き出したのかという過程を説明したり、そのような答えになった理由を説明したりすることが求められます。

このような問題に答えるには、先述の問題を読み取る力はもちろん、必要な情報を選択し、それらをどのような順序で位置づけるか判断し、わかりやすく伝えるように構成する思考力が必要です。このような力は、先生から問われたことに答えているだけでは身につけません。自分で「どうすればいいのかな」「なぜだろう」という問いを持ち、自分で考えた方法で解決を試み、他者と検討し合ってみる経験が大切です。本校でもこのような授業を大切にしていきたいと考えています。ご家庭でも、「～しなさい。」だけでなく「どうしたらいいと思う?」と考えさせる場面を増やしていただけたらと思います。

